

令和5年度【第7期】事業報告

I 事業方針

2015年に第3回国連防災世界会議で仙台防災枠組が策定されて以来、世界では防災の機運がこれまでになく高まっていますが、未だに相次ぐ大災害の発生を食い止めることには成功していません。地球温暖化に伴う気候変動の影響はすでに顕在化し、今後更に災害リスクが高まる恐れもある中、解決のための具体的な適応策の実施はもはや待ったなしの状況となってきました。

一般財団法人世界防災フォーラムは、東日本大震災や世界の大災害からの経験や教訓をもとに、産官学民での防災のソリューションの追求や国際的な共有を目的とし、防災(BOSAI)という概念の薄い国や地域に対し、防災・減災・復興の考え方を各国の政策や社会・文化に浸透させる事業を行ってまいります。そして、この事業を通して仙台防災枠組、パリ協定、持続可能な開発目標 (SDGs)の進捗や達成のために貢献してまいります。

II 個別事業

1. 公益事業

(1) 情報発信事業

【WBF2025開催準備 2025年3月開催予定】

2017年に第1回を開催した「世界防災フォーラム」は今回で4回目を数えます。「世界防災フォーラム 2025」と名称も新たに、2025年3月7日(金)から3月9日(日)までの予定で、仙台国際センター、仙臺緑彩館にて開催します。

昨今、気候変動による温暖化が加速し気象災害の激甚化や、大地震の発生による災害被害が拡大しています。今回は待ったなしの課題である気候変動への適応や、全ての人に対し行動変容を促し Bosai に取り組むことなどをテーマに、キャッチフレーズを「どうするキコヘン」としました。8/1より参加登録を開始しました。

【日米研究連携促進シンポジウム (JURC) 2024でのセッション実施】

日米研究連携シンポジウムは日米の研究者や企業人が集まるイベントです。本イベントはスタンフォード大学を会場に2023年から始めました。

世界防災フォーラムは、東北大学災害科学国際研究所 (IRIDeS)、国立研究開発法人 科学技術振興機構 (JST)、アメリカ国立科学財団 (National Science Foundation, NSF) と連携し、「My Bosai Solution」というタイトルで、日本の防災関

連企業、防災スタートアップ、米国の研究者、シリコンバレーの投資家などをゲストに迎え、持続可能な防災ビジネスをテーマにセッションを開催しました。

【世界防災関連博物館のネットワーク構築事業】

事業に大きな進捗はありませんでしたが、市民が防災を身近に感じられるように、まずは「World Bosai Walk Tohoku+10」で培った東北沿岸部の震災博物館や伝承館のネットワーク作りを継続して実施していきます。

（２）調査研究事業

【G D B 運営支援事業】

目立った進捗はありませんが、仙台防災枠組のグローバルターゲット達成のために、東北大学災害科学国際研究所災害統計グローバル統計センターの活動を継続して支援していきます。

【途上国の災害リスクの軽減プロジェクト（バングラデッシュのトルネード災害の軽減）】

新たな動きはありませんが、こちらも引き続き、バングラデッシュの気象庁、バングラデッシュ防災センター、世界風工学会等と連携し、ICT を駆使したトルネードの警報システムの導入と、住民が命を守ることを可能にするトルネード・シェルターの普及を目指したプロジェクトに取り組んでいます。

【防災に関する動向のとりまとめ、調査書の発行】

日米研究連携シンポジウム「My Bosai Solution」において、セッション成果を発表しました。持続可能な防災に取り組むためには、学際的なコラボレーションと、学界、産業界、政府、投資家間のパートナーシップの必要性、技術革新・政策・財政支援の組み合わせの重要性を訴えました。

２．収益事業

【震災博物館等の見学ツアー、防災文化祭（仮称）】

財団主催のイベントとして実施することはできませんでしたが、多くの方に防災に興味を持ってもらうこと目的とし、WBFが開催されない年の収益事業化を目指します。なお、国内外からの来客に関して個別に沿岸部の巡見の案内を実施しています。

【教育事業】

インターンの受け入れ等を実施しました。ノウハウを蓄積し、国連などの国際機関を目指す方向けの教育プログラム等を開発し、実施できるよう取り組んでいます。

【防災・環境関連ソリューション販売支援事業】

「防災科学リビングラボ」の立ち上げ業務、およびソフトウェア作成業務を請け負いました。今後も、財団のノウハウを活かした業務委託事業を実施する予定です。

Ⅲ 運営基盤の強化について

1. 財務

第7期決算は代表理事、関係者など内部からの寄付により、正味財産額300万円を上回ることができました。しかし財務状況は依然として脆弱なままです。セクター別に見てみると、「財団運営」に関しては若干ながら利益を計上していますが、「世界防災フォーラム」で大きな赤字を計上していることが財務の脆弱さの根本原因となっています。

このため第7期はフォーラムの赤字額を縮小すべく、フォーラムの参加登録費の見直し（1万円の値上げ）の実施、通訳の有償化、関係者の紹介による個別訪問や郵送物送付などスポンサー獲得のための活動を実施し、収入の増加に努めました。一方、コスト削減に関しては、会場使用計画の見直しをはじめ、運営全般の見直しを行いました。収支両面の見直しでフォーラム会計の健全化に向けた方策を実施しています。

財団運営においても収益事業の実施や、広報活動を強化し知名度を上げ、個人寄付等増加に向けた施策を実施しました。

2. 体制

新たに事務関連1名（パートタイム）新規採用し、WBF2025の準備、事業拡大にあたりました。

3. 広報活動

X（エックス）TikTok、Insta、FacebookのSNSを活用した広報活動を展開しています。河北新報に財団広告を掲載しました。徐々に財団知名度が向上しているのではないかと思います。

以 上